

## 京漬物に適した山科ナスの栽培技術

農林センター 園芸部

## 要旨

山科ナスの露地栽培に、当センターで開発した京都型露地ナス養液土耕栽培技術(以下、「養液土耕」とする)を導入すると秀品収量が増加する。また、山科ナスの養液土耕において、漬物加工に適した小果規格収穫(1果80~100g、以下「小果穫り」とする)することにより秀品果実数が増加する。

## 成果の概要

露地栽培山科ナスの養液土耕栽培において、表1のように、総窒素施肥量を慣行土耕栽培に比べて65%に減肥しても秀品収量が増加する(図1)。

漬物加工に適した小果穫りの場合、作期を通じて秀品果実数が増加する(図2)。

表1 養液土耕の窒素施肥量と施肥方法(kg/10a)

	基肥		追肥		総施肥量 (kg/10a)	N施肥量の 慣行土耕比(%)
	4/20	5/14~7/31	8/1~9/29	10/1~10/30		
養液土耕 <sup>*1</sup> 区	1.0	17.7	16.6	6.6	42.0	65
慣行土耕 <sup>*2</sup> 区	49.0	追肥2回	追肥1回	-	65.0	100

\*1: 施肥、かん水を兼ねて市販の液肥(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O = 10:4:8%)を400倍に希釈した培養液を2、3日に1回給液する栽培方法。

\*2: 慣行土耕では、基肥としてCDU燐加安S222を400kg/10a、追肥には千代田化成を1回当たり35kg/10a(N成分5.3kg/10a)施用。

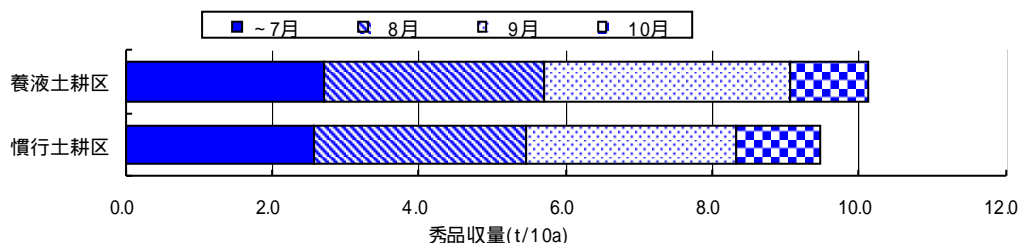


図1 栽培方法、施肥量の違いが秀品収量に及ぼす影響

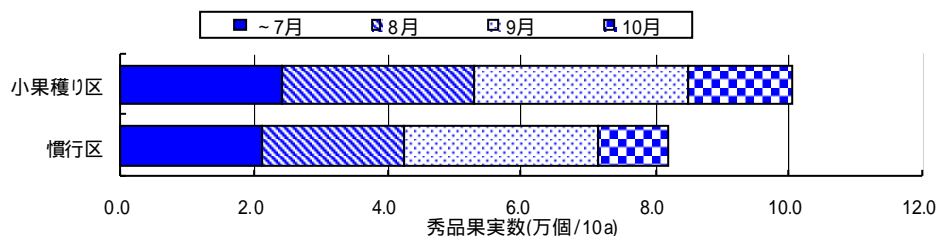


図2 収穫時の果実規格の違いが秀品果実数に及ぼす影響

小果穫り区: 1果80~100gで収穫  
慣行区: 1果120~150gで収穫

(問合せ先: 0771-22-6492)